

——昨年12月の就任から半年が経過した。商社出身で大手鉄骨ファブリケーターの社長に就いた心境は。

「よもやないと思っていたものづくりの世界に、長年勤めた流通業から飛び込むことになった。正直言って面食らう面もある。例えば、製造業全般での課題でもある受注の山積みの平準化問題。製造設備の生産・加工能力を踏まえ、最適な生産量を平均的に確保する難しさは十分理解していたが、実践することの大きさを痛感し、改めて効率的な生産が重要であると再認識した。また当社としての特徴を生かしながら改善できる点もあると感じている。当社の社員は真面目で、個々が技術力を持っている。しかし組織を強化するには、社員一人一人が経営者目線を持つことが大切だ。川岸マンの実直さにプラスアルファできれば、組織として強みが増していく」

——2023年10月～24年3月期決算は増収増益で折り返した。24年9月期の業績をどうみるか。

「半期の業績は予想を上回った。約1年分の契約残があるが、足元、首都圏の大型案件の工期遅れに加え、物価高

川岸工業 清時 康夫氏



るようにしたい。本格的な成長は第2次中計以降に見据え、現段階では基礎固めや意識改革に重点を置く。成長に向けた具体的な施策を立案し実行するため、社内の若手も参加するワーキンググループ（作業部会）を編成した。①営業起点の案件管理②工場リニューアル・DX（デジタルトランスフォーメーション）推進③M&A（企業の合併・買収）等を活用した新規ビジ

プロフィール

会社生活の大半を建築・土木の建材営業畑で歩み、取引先でもあった川岸工業に入って初めてのものづくりの現場に身を置く。座右の銘は、社訓にも通じる「為（な）さざる罪を知る」で、正しいと思うことはまず実行するのが信条だ。学生時代は体育会の端艇部（ボート）に身を置き、早慶レガッタに熱を上げた。週末は自宅から往復10kmの散歩と図書館通いを欠かさない。最近は孫2人との会話に目を細める。

略歴

清時 康夫氏（きよとき・やすお）1979年（昭54）慶大法卒、丸紅入社。条鋼営業から丸紅鉄鋼建材出向などを経て、2001年伊藤忠丸紅鉄鋼の発足に伴い伊藤忠丸紅テクノスチール（現伊藤忠丸紅住商テクノスチール）へ。建築建材部長などを歴任し08年取締役、12年4月関西支社長、18～20年副社長。22年川岸工業に転じ顧問、常務取締役東京支店長を務め23年12月から現職。1956年（昭31）11月生まれ、67歳。山口県出身。

100年後も建築鉄骨トップに

「成長基盤の基礎」固める

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

騰によるさらなる採算悪化の懸念がある。業績に及ぼす影響は現在精査している」

——今年4月、初めて中期経営計画を公表した。

「建設分野は景気動向に左右されやすく、中長期的な不確定要素の多さから、当社は単年度で経営計画を立ててきた。だが、社外だけでなく、社員に対しても会社の方向性をしっかりと示し、仕事への土

